緩和ケアチームこの一年

薬剤部　金澤　恵子　外科系診療部長　西山　徹

少しずつ軌道に乗りかけていたこのチームも，なんとか継続でき一安心といったところです．5月には堀井看護師が無事に緩和ケア認定看護師の資格を得て，新たな活動も期待されつつあります．兼務で関わってくれているメンバーの皆様には感謝いたします．

症例患者数

本年の介入患者数は耳鼻科1例，外科2例と思ったよりも少なかったのが残念です．外来に移行された場合も継続して介入しています．耳鼻科の患者さんの申込みがあった時に，まだ院内にもチームがあること自体が病棟スタッフに浸透されていなかったのですが，1例介入したことで，12月に未告知で正式介入ではありませんが5階西病棟側から相談を受け，スタッフが意識してくれ始めたことは嬉しく思います．

また，外科の患者さん2名は旭川の病院の緩和ケア科から紹介をうけ転院された患者さんであり，地道な活動が少しでも認められてきたのかなと思います．

症例が少ないのがまだ問題の一つではありますが，やはり医師をはじめまだ院内のスタッフ全体にチームの存在が浸透していないこと，まだ正式の委員会ではないためスタッフが思うように動けないことが理由の一つにあげられると思います．

勉強会の開催

1月22日28日に院内第5回目の勉強会を開催し，計44名の参加がありました．
10月6日には第6回目として堀井緩和ケア認定看護師に「緩和ケア申し込み書の概要と症例報告」と題しての勉強会を開催しました．もう何回かは堀井看護師に研修内容にからんだ内容で依頼の予定ですが，また今までの症例の紹介，他のスタッフからの提案等を取り入れて，年に2～3回は継続していきたいと思っています．ただ，院内の他の行事と重なってしまったりし思うような参加人数ではなかったことが少し残念でした．

また本年も院外の医療者を対象とした講演会も企画し，11月12日に青森県立保健大学学長のリボウィッツよしこ先生をお迎えし．「高齢者の終末期ケア～その人らしい死の迎え方～」と題し．ご講演いただき．記帳だけで133人の皆様の参加がありました．施設や在宅関係の医療者の参加も目立ち，この近隣でも緩和ケアに対しての関心が高まってきたようです．

発表活動

11月の上川北部緩和ケアを考える会では，薬剤部の町田薬剤師が発表しました．
欲をいえば，日本緩和医療学会で発表ができるようになればと思っています．

今後に向けて

現在スタッフであっても他の委員会とかと兼務し，なかなか参加できないことも多く，今後に向けスタッフの増員を考えています．正式の委員会でないため，スタッフもボランティア状態です．今後何とか正式委員会への昇格を検討していただきたいと思います．

堀井看護師が緩和ケア認定看護師の資格を得ました．チーム専任の看護師として活動ができればチーム，院内，そしてなによりも患者さんのために繋がっていくと思います．